

鴨川版CCRC推進会議第4回会議 会議録

1 日 時 平成 29 年 1 月 13 日（金） 午後 1 時 30 分から 2 時 45 分まで

2 場 所 鴨川市役所本庁舎 7 階会議室

3 出席者

(1) 委員

No.	所属・職名	氏 名	備 考
1	医療法人社団宏和会エビハラ病院 理事	海老原 正明	1号委員
2	鴨川市立国保病院 院長	林 宗寛	〃
3	社会福祉法人太陽会 理事長	亀田 信介	〃
4	社会福祉法人鴨川市社会福祉協議会 常務理事	速水 一郎	〃
5	鴨川市農林業体験交流協会 事務局長	清水 宏	2号委員
6	鴨川市商工会 副会長	島田 誠一	〃
7	館山公共職業安定所 所長 ※代理出席（館山公共職業安定所 統括職業指導官）	宮内 清則 （栗原 章匡）	〃
8	公益社団法人鴨川市シルバー人材センター 会長	小島 弘嗣	〃
9	学校法人鉄蕉館亀田医療大学 学長	橋本 裕二	2号委員 委員長
10	総合型地域スポーツクラブ鴨川オーシャンスポーツ クラブ 会長	山下 洋介	3号委員
11	特定非営利活動法人大山千枚田保存会 事務局長	浅田 大輔	〃
12	一般社団法人鴨川青年会議所 理事長	鎌田 浩茂	〃
13	特定非営利活動法人鴨川現代バレエ団 理事長 鴨川バレエアカデミー 代表	長村 順子	〃
14	株式会社千葉銀行鴨川支店 支店長	石渡 雄悟	〃

※欠席委員

1	鴨川市介護保険運営協議会 会長	榎本 豊	1号委員
---	--------------------	------	------

2	学校法人城西大学城西国際大学観光学部 学部長	渡辺 淳一	2号委員
3	鴨川ふるさと会 顧問	石川 忠男	3号委員 副委員長

(順不同、敬称略)

(2) 市

No.	所属・職名	氏名	備考
1	市長	長谷川 孝夫	
2	参事	岩田 知也	
3	企画政策課 課長	平川 潔	
4	健康推進課 課長	牛村 隆一	
5	福祉課 課長補佐	加藤 道明	
6	子ども支援課 課長	羽田 幸弘	
7	農水商工課 都市農村交流係 係長	田中 仁之	
8	観光課 課長補佐	小柴 則明	
9	生涯学習課 課長補佐	入江 裕一	
10	スポーツ振興課 課長補佐	鈴木 圭一郎	
11	国保病院 事務長	山口 幸宏	
12	企画政策課 課長補佐	大久保 孝雄	
13	企画政策課 地域戦略係 係長	滝口 俊孝	
14	企画政策課 地域戦略係 副主査	浦邊 彰紀	

(3) 鴨川版CCRC構想等策定支援業務委託事業者

株式会社三菱総合研究所 田村 隆彦、濱松 由莉

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 野口 和博 計3名

(4) 傍聴者

計4名

4 配布資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・席次表
- ・出席者名簿
- ・資料1 鴨川版CCRC構想（概要版、原案）
- ・資料2 パブリックコメントの実施について
- ・資料3 日本版CCRCの先進事例
- ・鴨川版CCRC推進会議第3回会議会議録

5 会議内容

(1) 開会（午後1時30分）

(2) あいさつ

① 市長

（要旨）

前回の会議では、鴨川版CCRCによる効果とその影響として、移住したアクティブシニアが健康状態を維持し続けられる取組みを進めることで、要介護者の割合を抑えられることに加え、税収増も含めた一定程度の経済効果を期待できるとの分析結果が示された。

また、市内の事業所等に対する高齢者雇用アンケート調査の結果として、本市には高齢者の雇用に対する一定のニーズがあり、移住アクティブシニアが生きがいを持って働ける環境を整えられる下地があることも把握された。

その上で、鴨川版CCRC構想の素案を示したところ、委員の方から、我が市が持っている特性、良さをもっともっと出して発信することが大切である、行政としても民間の活力を引き出すための取組みが必要であるなどの指摘をはじめ、幅広い発言をいただいた。

このCCRCに関する取組みについては、元気な高齢者の移住促進にとどまらず、将来的に地域で活躍する人材を育てることで、鴨川の人が、鴨川に住んで、鴨川で学び、鴨川で仕事をし、そして将来、鴨川で結婚、出産、子育てをするといった好循環を生み出す視点が必要と考えている。

これまででは地方が首都圏に憧れる時代が長く続いてきたが、これからは首都圏の方が地方を憧れる時代になるだろうと思っており、どのようにして鴨川市をはじめとした地方に人の流れを持ってくるかが重要である。

本日の会議では、改めて構想の原案を提示するが、この原案については、パブリックコメント手続を実施し、市民からも意見をいただくこととしている。

委員におかれても、本市にとって望ましいCCRCの形成に向けて、当事者の一人として忌憚のない意見をいただくよう、改めてお願いを申し上げます。

② 委員長

(要旨)

本日の会議では、前回会議までに委員からいただいた意見を踏まえ、鴨川版CCRC構想の原案が作成されたので、まずは原案について説明していただく。

また、CCRCに関する事例を三菱総研より紹介していただく。地域全体で鴨川版CCRCの計画を進めていく観点から、委員の理解をさらに深めていただく機会になればと考えている。

(3) 議事

鴨川版CCRC推進会議設置要綱第5条第2項の規定に基づき会議が成立したことについて事務局から報告した後、同条第1項の規定に基づき、橋本委員長が議長として議事を進行した。

冒頭、議長から、名簿順に 小島 弘嗣 委員 及び 山下 洋介 委員を会議録署名委員として指名した後、議事に入った。

① 鴨川版CCRC構想(原案)について

② パブリックコメントの実施について

①及び②について、関連があるため一括して審議することとした。

①については、資料1「鴨川版CCRC構想(概要版、原案)」により、(株)三菱総合研究所 田村氏から説明した。

②については、資料2「パブリックコメントの実施について」により、事務局から説明した。

いずれも、資料のとおり承認した。

出席者の主な発言は次のとおり。

(委員長)

ビレッジの図について、鴨川ビレッジと天津小湊ビレッジの間にある点線と直線の2本は、どういう意味なのか。

(田村氏)

旧来の町の区分としては、破線で鴨川のエリアと天津小湊のエリアが分かれているが、介護保険事業計画で設定されている日常生活圏域は、この直線で区分されるエリアであり、市全体では4つに区分されている。CCRCでは介護あるいは生活支援の取組みにも非常に関連が深いので、その区割りをベースとしている。

(事務局)

若干、補足をさせていただく。介護保険事業計画には、高齢者を中心とした総合相談や介護のマネジメント、予防活動を支援する機能を有する地域包括支援センターの設置を位置付けている。このセンターが所管する生活圏域は、65歳以

上人口 3,000 人以上とする必要があることから、旧天津小湊町のエリア（点線部分）に東条地区を加えた実線部分の区域で、地域包括支援センター（サブセンター）を設置しているものである。

（亀田委員）

原案の説明は理解したが、あまりにも現在の時点でしか、ものを見ていないのではないか。現実的には、このような田舎を持続させることができないことは、わかっている。東京に住んでいる人に向けてインパクトのある希望を掲げ、長期、中期、短期で、夢を感じられるブランディング、プロモーションを行うことが重要である。

まちづくりはまちづくりで検討されていると思うが、サイトプランニングや動線計画も含めて、今ありきの計画ではなく、鴨川版 C C R C としてまちを変えていく計画とし、他地域との差別化を図ることが重要である。

この構想で、東京に住んでいる人たちにどうプロモーションし、魅力的と感じてここに住んでもらうのか、見えないところがある。

（長村委員）

今回の提案は4つのエリアがあり、各エリアの拠点を受け皿になるというような説明だったと思う。都市から移住者を募集するとき、情報発信はどこが中心になって行うのか。

（田村氏）

移住促進に向けた取組みとして、原案ではふるさと回帰支援センターを通じたワンストップ窓口を記載している。ここを中心に移住者向けの P R などのさまざまな取組みを発信できれば良いと考えている。

（委員長）

行政主体なのか、外部委託など民間主体なのか。

（事務局）

現在、民間組織として、ふるさと回帰支援センターがあり、市の移住関係の事務を行っている。市もサポートしながら取り組んでいるが、一層の機能強化を図り、第一義的な相談窓口として機能できるようにしていきたい。

（島田委員）

一つは、パブリックコメントの意見募集について、市民への周知はどのように行うのか。また、原案は1階の市政情報コーナーと3階の企画政策課で公表するとのことだが、どの範囲の資料を公表するのか。

（事務局）

パブリックコメントの周知については、広報誌と市ホームページで行う。公表資料については、本日配布した原案と概要版を用意する予定である。ホームページ上でも同じ資料を P D F で掲載する。

（林委員）

原案についての意見だが、長期的視点に立った、まちづくり全体の構想があった方がよいのではないか。鴨川で一番物足りないと思うのは交通機関。車で生活している分には快適であるが、車がないと何もできなくなる。運転できる間はいいが、車を運転しないと非常に住みにくいまちになってしまう。行政に働きかけるなどして市民の足を充実させないと、魅力がなくなってしまうのではないか。

(事務局)

コミュニティバスは、現在も市内3路線で運行している。地域公共交通網形成計画を策定しており、今後、地域の実情に合わせて新たな交通手段も検討していく。

(亀田委員)

コンパクトシティに変えていくためのサイトプランニングと、そのための動線計画が重要である。高齢者が自動車を運転できなくなった場合についても、例えば、病院とスーパーマーケット、市役所、郵便局を結び、運行頻度の高い路線を検討すべき。

ここまで高齢化と人口減少が進んでしまったら、自治体でも長期プランをきちんとつくらないといけない。コンパクトシティなら、どういうものにしていくのか、時間をかけて市民のコンセンサスを取り、50年かけてまちを作り変えるつもりでないと、自治体も生き延びられないのではないか。

③ CCRCの実例について

資料3「日本版CCRCの先進事例」により、(株)三菱総合研究所 田村氏から説明した。

出席者の主な発言は次のとおり。

(委員長)

事例について、CCRC構想のアウトカムとして、移住者数などの実績データはないか。

(田村氏)

ゆいま〜る中沢では、56室がほぼ埋まっていると聞いており、東京やその周辺の方が移っている。ゆいま〜るを運営するコミュニティネットが栃木県那須町で実施した事例では、80室程度のほとんどが東京圏から移住された方だと聞いている。

輪島の事例では、海外青年協力隊経験者とその家族など、概ね20人位が最初の担い手として移り住み、活動したと聞いている。

それぞれの施設によって規模は異なっており、魅力づけや移住者の活躍の場をどうつくっていくかによって、移住の規模や、住まわれる方も変わってくる。

(林委員)

鴨川市は合併した結果、エリアが広がっており、コンパクトシティ化が非常にやりにくい。そういった環境を逆につくっているのではないか。それをどのように修正していくのかということだと思う。

(亀田委員)

輪島や那須の事例の紹介があったが、亡くなるまで本当に安心して暮らせるのか疑問である。アウトカムは、何人来たかではなく、本来的には何パーセントの方々が死ぬまで幸せに過ごせたのかということ。

年数が経つと平均年齢も上がり、これらの施設でも20年もたてば亡くなる方が激増する。それでも安心して過ごせることを保証するのがC C R Cであって、移住促進だけではない。

日本ではコンセプトそのものがまだまともにはできていないが、今後は、それがブランドになっていくであろう。

④ その他

- 原案等について委員から発言があった。要旨は次のとおり。

(鎌田委員)

原案の「具体的な取組みに向けて」について、いろいろな分野の具体的な事項が記載されているが、これらの事業は今後、市の各課各担当部署で精査した上で、5年間で段階的に実施し、5年後にプラチナタウン構想の進捗を確認するといったイメージで良いか。

(事務局)

構想に記載した事項は計画段階のものもあるが、5年間の構想として予算を確保した上で、市としてしっかりと取り組んでいく。

(清水委員)

現状から積み上げていく考え方ではなく、鴨川市としてどのくらいのグレードレベルを目指し、いつどのように決定していくかも今後の取組みに入ると思う。先進事例を踏まえて、本当に鴨川市に合った方法で、つくり上げて欲しい。

鴨川市として、民・官・学、医療・介護も含めてこの構想を高める必要がある。プロモーションをかけて、都会の人たちが飛びついてくるような夢のある、話題となるアプローチができるような計画を今後つくっていただきたい。

- 市長から総括があった。要旨は次のとおり。

本市が進める鴨川版C C R Cの原案の考え方を提示させていただき、委員から貴重な意見をいただいた。

委員から発言のあった鴨川市の10年、20年先のまちの姿をしっかりと示すことが大切といった意見については、全くそのとおりであると思う。この点については、

先般、都市計画マスタープランを作成したところであり、天津小湊、江見、長狭、鴨川といったゾーンに分けた計画もあるが、基本コンセプトの部分から具現化施策に至るまで、行政と市民とが一緒に考えていかなければいけないと考えている。

民間主導の中で、行政がサポートしていくための環境を整えることが重要である。これからのまちづくりに求められることとして、当然、行政がやるべきジャッジメントはしっかり行った上で、民間が入って取り組む場合の行政のサポートの仕方が求められると思う。パブリックコメントを行うことで、市民あるいは市外からのいろいろな意見がいただけると思う。一般に公表することで、新たな参入が進むことに対する期待もある。

コンパクトシティに関する意見もいただいた。天津小湊や長狭、江見など、それぞれの地域で生活圏が成立するようなまちづくりがあっても良いと思う。そこをコミュニティバスが行き来することもコンパクトなまちづくりにつながる。さまざまな意見をいただきながら、鴨川版C C R Cの環境を整えていくことができれば良いと考えている。

パブリックコメントの発信をどうするのかという質問をいただいたが、残念ながら、これまではあまり意見をいただけていない状況にある。できるだけ多くの人たちに意見をいただけるように発信していきたい。

より多くの人たちが入って来られる、弾力のある鴨川市でありたいという夢を持っている。

●事務局から次の事項を説明した。

- ・次回会議は2月17日、金曜日の午後を開催することとし、場所等については、調整の上で改めて連絡すること
- ・次回会議も、受託事業者から資料送付を行う予定であること
- ・会議録は整い次第、小島委員、山下委員に確認を願うこと

(4) 閉会 (午後2時45分)

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、鴨川版
C C R C 推進会議第4回会議における会議録の内容について確認します。

平成29年1月30日

小島 弘嗣

山下 洋介